

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	IPコミュニケーション技術者を育成する 高度ネットワーク実践教育プログラムの開発		
法人名	学校法人麻生塾		
学校名	麻生情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 麻生 泰	担当者 連絡先	畠中 康夫 TEL : 092-415-2290

1. 事業の概要

IPネットワーク(注1)上でのコミュニケーション手段が急速に発展している。IP上のコミュニケーションは、IP電話、ビデオ会議、ボイスメール、アプリケーション共有など、さまざまなサービスが有機的に統合されたものである。このシステムが目指すのは、統合されたコミュニケーションによるビジネス現場の生産性向上である。一方、そのサポートに必要な技術を体系的に理解している技術者があまりにも少ないのも現実である。本事業では、IPコミュニケーション技術者を育成する実践的カリキュラムを開発し、実証研修会を通してその内容に関する検証を行った。

(注1)IPネットワークとはIP(Internet Protocol)技術を用いたネットワークインフラをさす。具体的にはインターネットやイントラネットである。

2. 事業の評価に関する項目

目的・重点事項の達成状況

本プロジェクトでは、IPコミュニケーション技術に関する調査を行い、技術面からの考察とともに、IPコミュニケーションを利用した顧客満足度向上や生産性向上などの考え方も身につく現場が必要とされるカリキュラムを開発することを目的とした。カリキュラムの完成状況については、専門学校の4年生課程だけでなく、社会人教育にも活用できる高レベルの教材開発となった。

事業により得られた成果

(1) IPコミュニケーション技術者育成プログラム

国内、国外のIPコミュニケーションシステムに必要な要素技術を明確にして、かつ目的とするビジネス生産性向上に必要なポイントを明確にして開発を行った。

(2) 実習および演習問題

理解を助けるため、機材を含めた実習が必要であるが、教育機関を考慮した場合、高価な機材を

使うわけにはいかないために、各社メーカーのソリューション、機材構成を研究して安価でかつ汎用的に使用されている技術(プロトコル)を実装した製品で開発した。

また、演習問題も用意して、理解の度合いを図れるものとした。

(3) 講師用実施要領マニュアル

複数の機材での実習の場合などでも、対応できるように講師用のマニュアルを作成した。

(4) IPコミュニケーション技術および人材の調査

以下項目「ニーズ調査等」の内容をまとめたものとした。

今後の活用

本事業で作成されたプログラムは、4年制課程の専門学校教育への活用を下記のように実施していく。

- 1・2年次：ネットワークの基礎学習(既存の専門学校教育で実施中)
- 3年次：IP電話の基礎教育(一部の専門学校教育で実施中)
- 4年次：本プログラムで開発された教材を用いての教育

上記、4年間での教育により企業が求めるIPコミュニケーションエンジニアを養成する。

### 次年度以降における課題・展開

- (1) 専門学校をはじめネットワーク教育を行っている企業への周知を行い、教材活用を促す。
- (2) 当校での授業で、優秀な学生向けに選択授業で利用していく。  
平成19年度から4年生課程が新設されるので、その学科で利用していく。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ニーズ調査等

IPコミュニケーション技術者育成プログラムを作成するにあたり、ニーズの調査（視察）を行った。

プログラム開発をより企業ニーズに合わせた内容とするために必要な調査である。

<内容>

株式会社日立製作所CommuniMax センタ視察

シスコシステムズ赤坂オフィス視察

株式会社よんでんメディアワークス視察

#### カリキュラムの開発

カリキュラム開発としては、実態調査の結果をもとに、技術面からの考察とともに、IPコミュニケーションを利用した顧客満足度向上や生産性向上などの考え方も身につく現場で必要とされるカリキュラムを開発した。

カリキュラムは、専修学校4年生課程だけでなく、社会人教育にも活用できる内容となっている。また、各フェーズに分けた構成となっていることで、対象者の前提スキルやレベルに合わせて実機演習を織り交ぜながら、自由に活用することが可能となっている。

#### 実証講座

テーマ：『IPコミュニケーション技術者育成プログラム』 講師向けTrain The Trainer

期間：平成19年3月9日（金）

受講者数：6名（専修学校教員5名、一般企業1名）

場所：IPイノベーションズ セミナールーム（東京）

内容：

- ・研修を始めるにあたって
- ・演習の進め方
  1. 演習における設計の考え方
  2. 「IPコミュニケーションネットワーク構築」演習問題
  3. 演習1: 「Lucky Field Beverage 編」
  4. 演習2: 「West Tail Furniture 編」
  5. テキスト（技術資料）
    - ・無線LAN（第1章～第5章）
    - ・情報セキュリティ（第6章）
    - ・動画とIP技術（第7章）
- ・実習

#### その他

統合的なIPコミュニケーション技術と生産性向上の意味を必要とする教育プログラムを開発することは、大変難しいものであったが、メーリングリストを活用することで、参加した専修学校及び企業間での連携や交流が上手く行われた。

その結果、内容の濃い活動と成果物を作成することができた。